

## 函館に移住された方へのアンケート報告書

### 調査目的

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によって移動や行動に制限がかかるなどの影響を受けています。新しい生活様式が求められる2020年、適切な支援や対応の検討を行うことを目的に、移住サポートセンターとして初めて実態調査を行いました。

### 調査概要

回答数：21件

対象：函館に移住された方・二拠点生活の方など

期間：2020年7月28日（火）～8月21日（金）

実施方法：WEBフォームにて回答

実施主体：移住サポートセンター（函館市地域交流まちづくりセンター内）

移住サポートセンターは、函館市より業務委託を受けて移住相談窓口（ワンストップ窓口）を運営しています。函館市への移住を検討している方のお問い合わせや函館に移り住んだ後も暮らしをサポートしています。

アンケートにご協力をいただいたみなさまに感謝申し上げます。

移住サポートセンターでは、アンケートの結果を踏まえ、関係団体や函館市など取り組みを開始しています。移住サポートセンター（函館市地域交流まちづくりセンター）ホームページ等でご案内します。

### 結果まとめ

- ・オンラインを活用した『顔が見える』移住相談  
→ 安心して相談できる環境づくり
- ・SNSの強みをいかして、このまちで暮らす人の魅力を伝える  
→ 何より自分たちが楽しく暮らす



【本アンケート結果に対する問い合わせ先】

はこだて移住サポートセンター

函館市地域交流まちづくりセンター内

〒040-0053 函館市末広町 4-19

電話 0138-22-9700

メール info@hakomachi.net

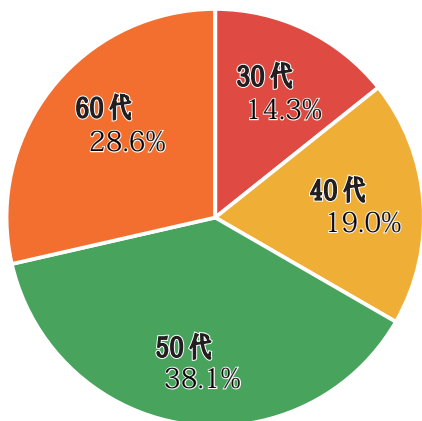
ホームページ <http://www.hakomachi.com>

# アンケートの結果について

## 1、回答者の属性

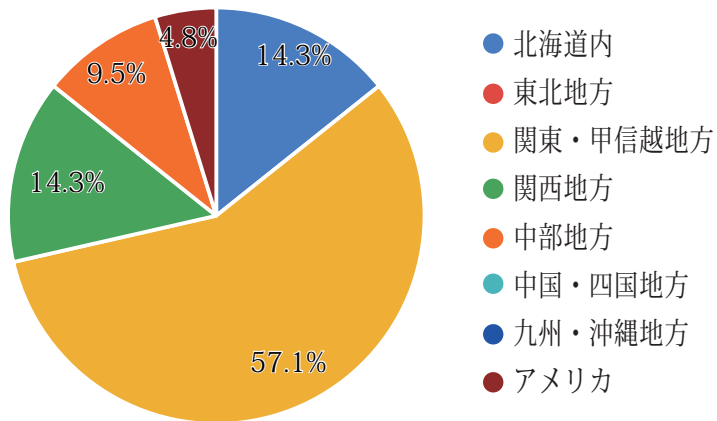
### ・年代について

単回答



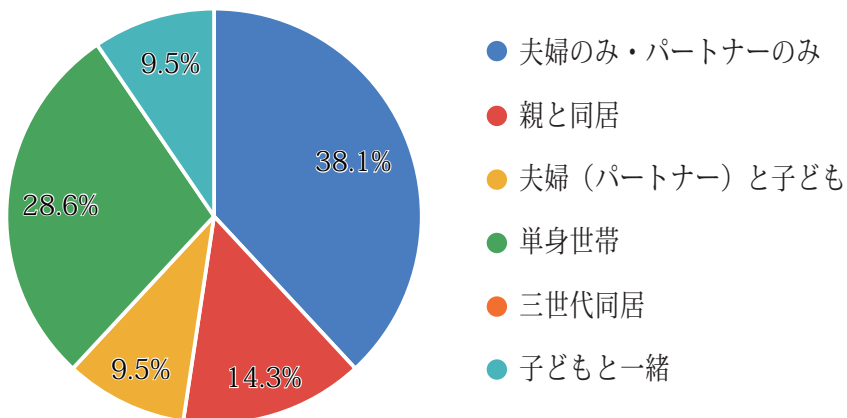
### ・以前の居住地について

単回答



### ・現在の家族構成について

単回答



### ・回答者の年代について

50代・60代で、約67%を占めました

### ・函館に移住する以前の居住地について

関東・甲信越地方が一番多く57.1%、続いて北海道・関西地方

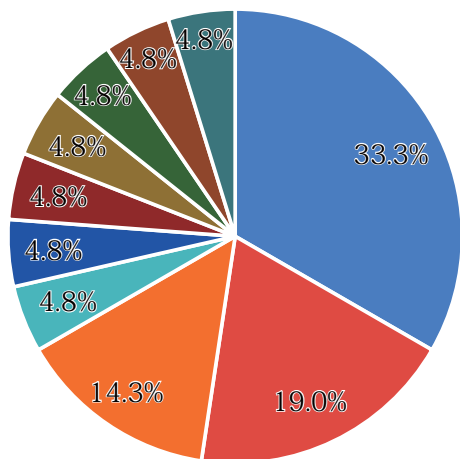
### ・現在の家族構成について

夫婦・パートナーのみが一番多く38.1%、次いで単身が28.6%、親と同居が14.3%

## 2、移住のスタイル、検討時間

### ・移住のスタイルについて

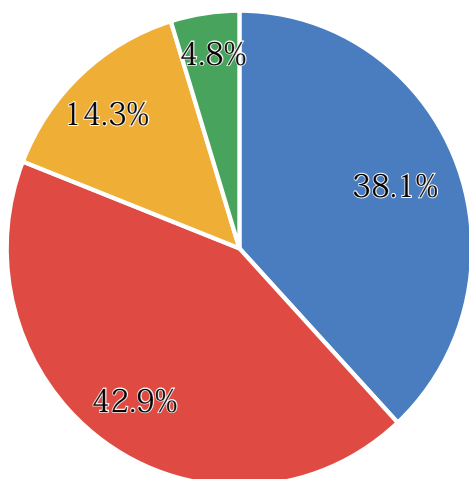
単回答



- Iターン（都会出身者が函館に移住）
- Uターン（函館出身者が都会で生活後、函館に移住）
- Jターン（函館出身者が都会で生活後、函館の近郊に移住）
- 祖父母や親せきが暮らす函館への移住
- 自分の妻・夫（パートナーも含む）の出身地である函館への移住
- 仕事の都合で全国各地を転居し、函館での暮らしが気に入って移住
- 友人知人の故郷が函館で、話を聞いたりするうち興味を持って移住
- 都会から地方へ移住後、函館に興味を持って移住
- 二拠点暮らし
- 地方から都会へ移住したあとで、函館に興味を持って移住
- 海、港がある函館に憧れて住みました
- 子供が小学校に上がる際、環境を考えて

### ・移住を決断するまでの時間について

単回答

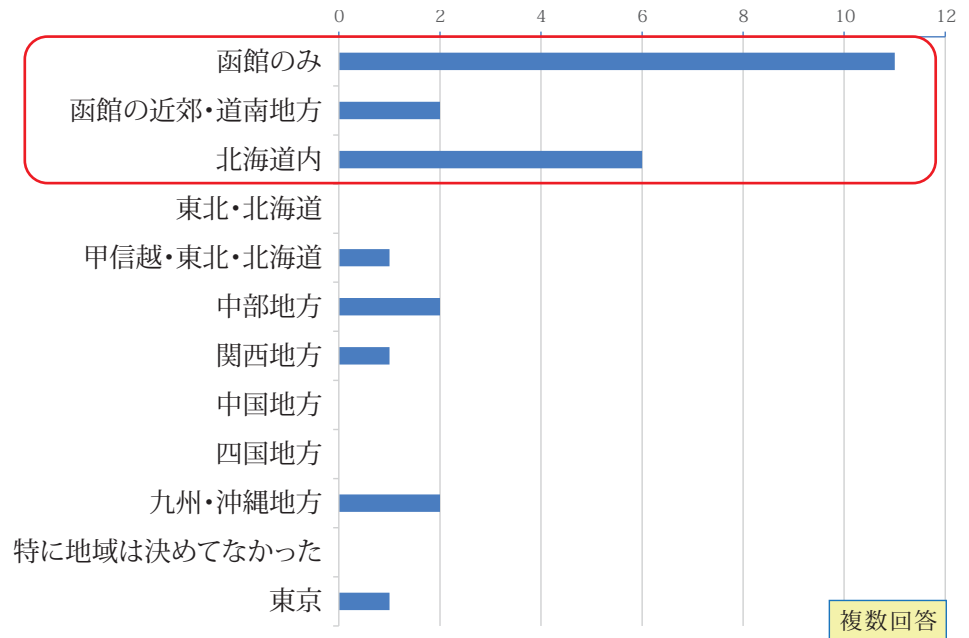


- 1年以内
- 3年以内
- 5年以内
- 10年以内
- 10年以上
- 分からない
- 行ったり来たりの二拠点暮らし

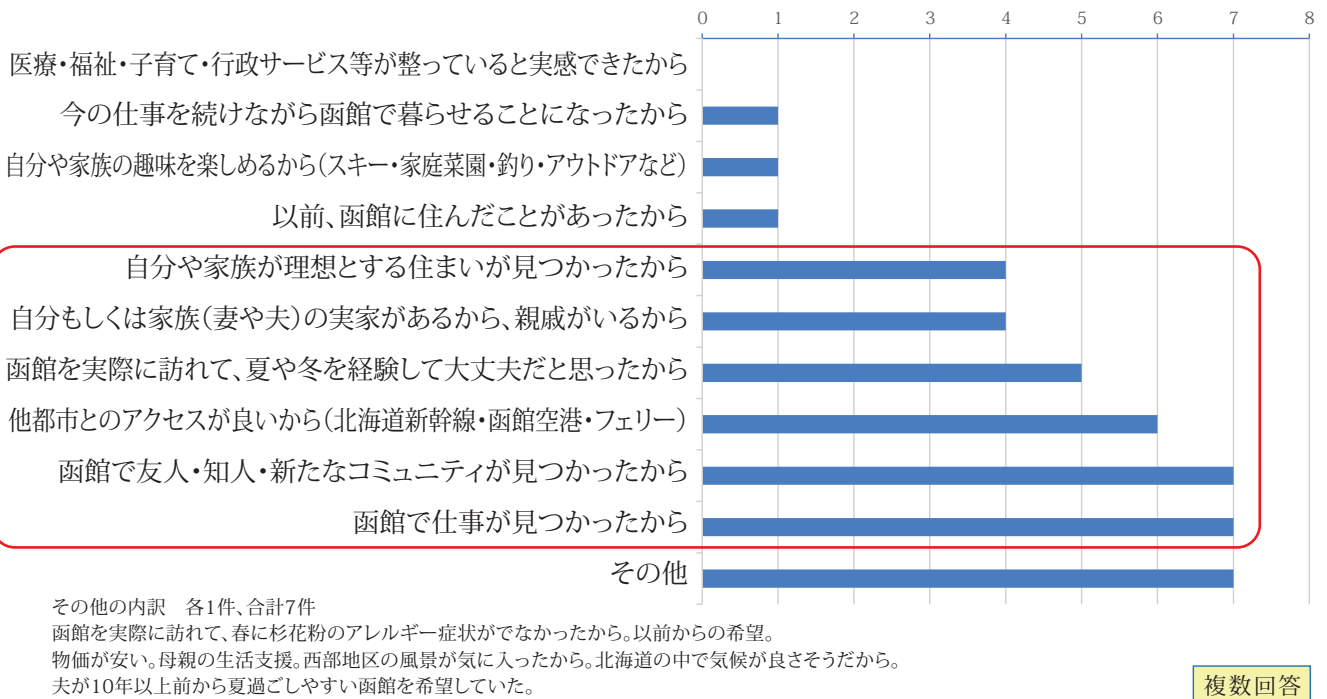
- ・移住のスタイルについて、Iターンが33.3%、Uターンが19.0%  
パートナーの出身地である函館への移住が14.3%
- ・函館への移住を考えて決断するまでの時間について  
1年以内が38.1%、3年以内が42.9%、あわせて81%

### 3、移住の候補地、決め手

#### ・候補地について



#### ・函館を選んだ決め手について



#### ・候補地について

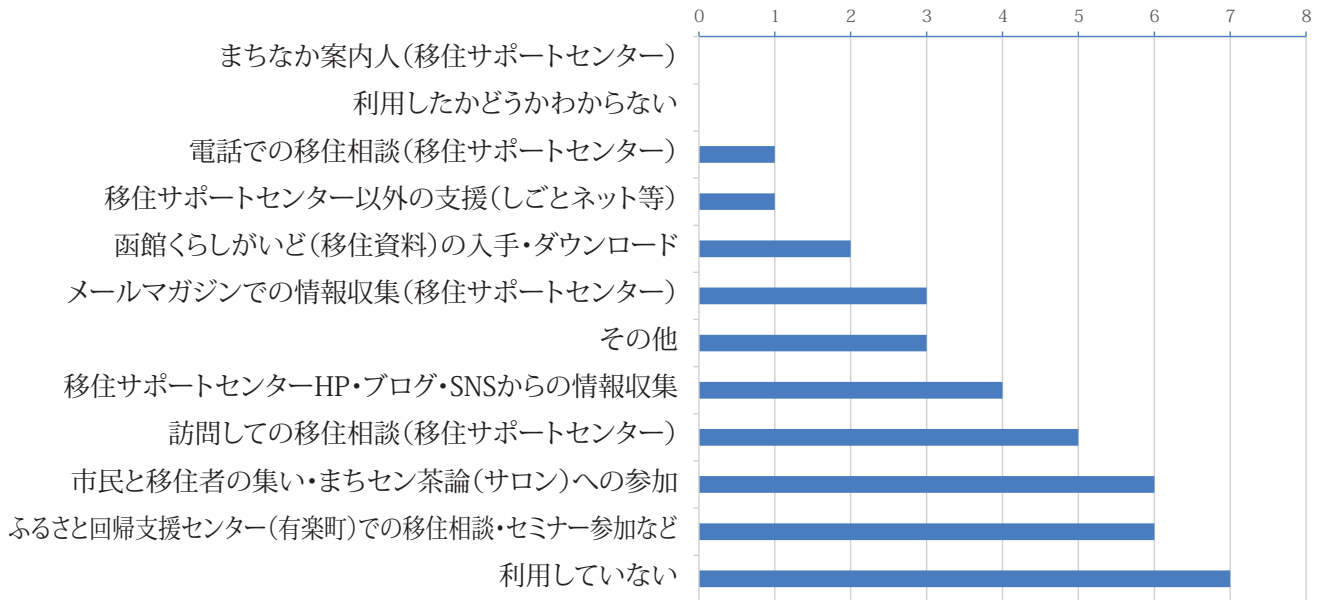
函館のみが多数、次いで北海道内を候補地として検討

#### ・函館を選んだ決め手について

住まい・仕事・季節の経験・知り合いがいるなどが多数

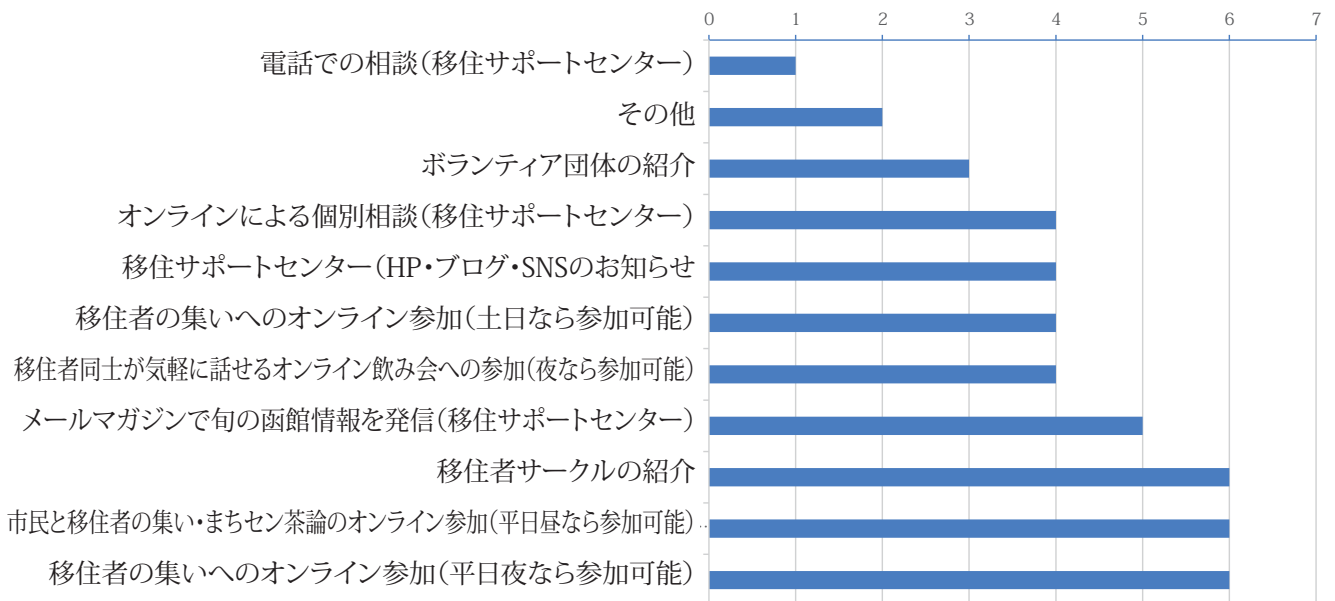
## 4、移住先の支援、要望

### ・函館での公的支援について



複数回答

### ・移住サポートセンターの支援について



複数回答

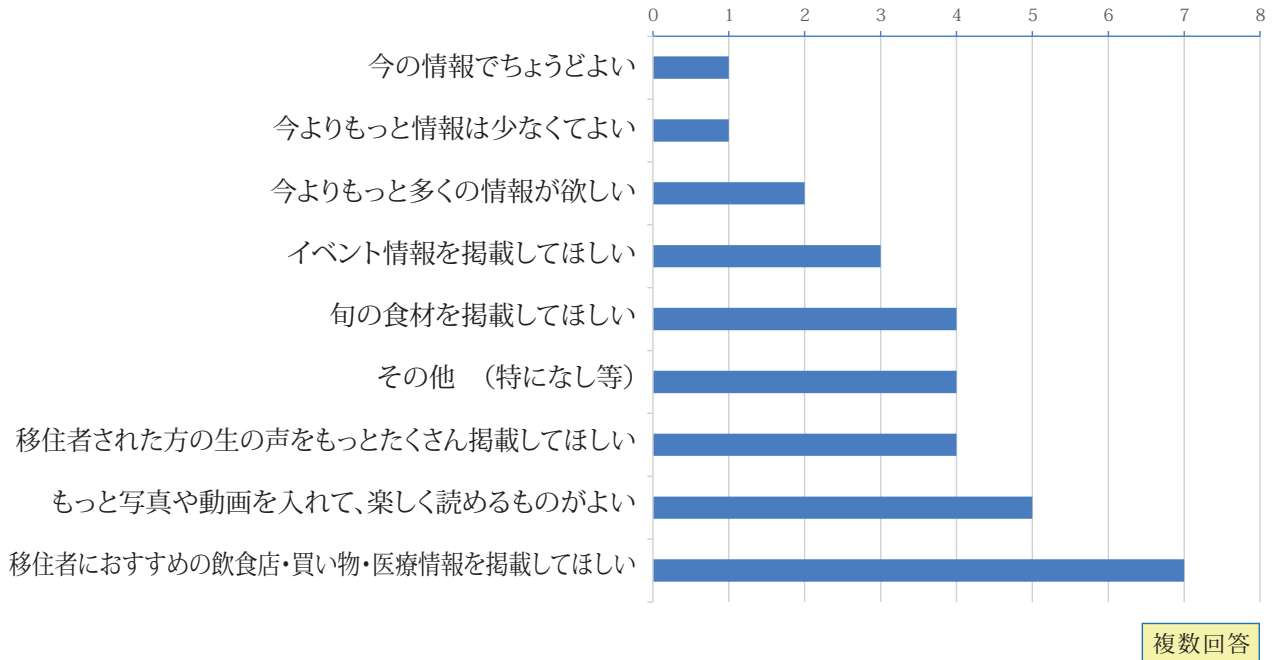
### ・函館での公的支援について

利用していないという回答の一方、ブログやセミナーなどに参加し情報収集している

### ・移住サポートセンターの支援について

インターネットを使ったオンラインでの交流がニーズとして多数

・メールマガジンについて



・メールマガジンについて

移住者の声、旬やイベントなどの情報掲載を希望

・要望等をご自由にご記入ください

・私は実家が函館にあり、学生時代はこちらで過ごしていたため、土地勘や生活に対する不安などはあまりありませんでした。一方、函館に所縁の無い方が移住するためには、移住後の生活に対する不安を取り除く必要があると思いますので、可能な限り移住後の生活をイメージできるようなローカルな情報を出してあげた方が良いと思います。(バスや市電の便利な地域・不便な地域、スーパー等の買い物の利便性等、市民は肌感覚で掴んでいるけど外からじゃ分かりにくい「市民の常識」的な内容。) 移住により人口問題を解決しようという考えは同意できていませんが、都市圏を出たいと考えている人に対して適切な情報提供をして、より良い生活の選択に協力するのはとても重要なことと思いますので、今後も皆さんの業務を応援しています。

・市役所に替わって、移住の検討や、移住後の日常生活で必要とされる情報を、定常的に提供する。市のHP「函館市移住・定住情報」からダウンロードできるPDF「函館暮らしが이드」の地図には、移住後の生活に役立つ情報がなく、裏面の記載も、移住のために有用な情報はすくない。

※ 個人情報等が記載されているものは掲載しておりませんので、ご了承ください。

- ・移住者同士、移住者と地元市民など、人と人が直接コンタクトする機会が、多ければ多いほどいいと思う。ここに行けば誰か話し相手がいる、という場があれば理想的なのだが。
- ・まちセン茶論は高齢者しか来ないしその場だけの会話。友人に成らない。その場限りの関係ではなく、リアルな友人作りの場をちゃんと提供すべき。若い人がちゃんと集まれる場。高齢者の暇つぶしの場はイライライ。若い人に視点を置くべき。月2回夜に飲み会を開催し、移住者・サポセンの職員・市役所の職員・FMいるかの人など、色々な人と語りあえて、リアルな友人になれる場を提供しないと、意味が無い。
- ・以前のように愛知や大阪などでも移住相談会などを開催してはどうでしょう。
- ・西部地区の空き家オーナーと移住者をつなげる支援などあれば。
- ・最近仕事も多くなり、ゆっくり振り返る機会が無いので、そんな話しながらなら何か意見が出るかもしれません。